



めざす生徒像

- ☆自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力)
- ☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性)
- ☆自他の生命を尊重し、心身を鍛える生徒(健やかな体)

校訓

自主 協働 剛健

携帯電話の使用について

昨今の情報化社会の変化は急速であり、それに伴ってネット環境もますます高速化され、携帯電話所持者の大半がスマートフォンを持つようになりました。つい最近も5G回線が出てきて、大都市では超高速回線が使用できるようになりつつあります。

学校教育においてもGIGAスクール構想により、タブレットが一人一台付与されるようになります。一昔前までは、携帯電話を与えるか、与えないかという議論がされていましたが、今の時代にあっては持つのが普通になってきてもおかしくはありません。実際、所持率を見ますと高校生での所持率は90%を超え、中学生で60%あたりではないかと言われています。持たせない指導や教育から、持つためのルールやモラルの指導に重点を置いた教育をしていかななくてはならない時代になってきたと思えます。

学校では常日頃からネット社会の怖さや、SNS使用にあたってのモラルについては指導しています。12月15日にはゲストティーチャーを招いてのスマホ講習会も実施する予定です。一方ご家庭ではどうでしょうか。子どもに買い与える際に、家庭でのルールは確立されておられるでしょうか。ナイフは料理には欠かせない道具ですが、人を傷つけることもできる側面も併せ持っています。それと同じように、便利なスマホも扱い方を誤れば、一生消えることのないネット上での誹謗中傷につながったり、危ないサイトから気づかないうちに犯罪に巻き込まれる可能性がすぐそばに潜んでいます。

健全育成条例では未成年が携帯電話を所持する場合、**フィルタリングソフトの導入が義務づけられています**が、ややもすると「入れたいソフトが使えない」「ネットで検索しても出てこない」という本人の申し入れから、契約の際に外してもらっている場合もあるようです。本校の生徒やご家庭では大丈夫かと思いますが、お子様の携帯には入っていますでしょうか。フィルタリングが入っていても、個別に設定すればソフトは入れることができますし、有害サイトや有害アプリが制限できるだけでなく、日ごとの電源の管理も保護者の携帯からコントロールできます。

大人が買い与えるか与えないかの判断をする以上、与える場合は家庭

でのルールの設定は必要不可欠であると思います。

これからの新しい社会への入り口が安全なものなのか、危険なものなのかは、最初に持つ時の経験や指導によって変わります。今、私たち大人に求められているのは、持たせない教育ではなく、持たせる前提に立った、新しい社会への関わり方の教育ではないでしょうか。

携帯電話会社が行う安全教室で、よく使われていることをご紹介します。今後のご参考にして下さい。

1. 発達段階にあったルール作り



「友達はみんなしてる」「フィルタリングはいや」そんな子どもの望みを認めるためではなく、必要性や利便性の裏側にあるリスクにきちんと対応しなければなりません。子どもが望むルールになってはいけません。

2. 子どもと話し合いながら決める

一方的な押しつけにならないよう、子ども自身がルールの意味や必要性に気づく事が大切です。

3. 機能は段階的に増やす

フィルタリング機能や、保護者設定機能で、ほとんどのコントロールができます。必要最低限の機能から始めて、成長度合いと必要性に応じて見直しましょう。

4. 定期的にルールは見直す

ルールの変更や、追加の必要性はないか、使用の実態に見合った、定期的なルールの見直しが必要です。

いつも長い文章ばかりで、そっけない学校だよりになってしまい申し訳なく思っております。しかし、行事予定等や学級での子どもたちの頑張りは担任が学級だより等でお知らせしたり、ホームページでの発信もしています。できるかぎり、私自身の思いを発信する、「学校だより」でありたいと思っております。ぜひご一読いただき、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

